

三重県障害者施策推進協議会平成30年度第1回手話施策推進部会概要

日時 平成30年7月25日(水) 13時30分～15時45分

場所 三重県吉田山会館 3階 第302会議室(三重県津市栄町1丁目891番地)

出席者 別紙のとおり

協議事項及び報告事項に関する委員の主な発言

- (委員) 手話通訳が付くイベント情報や、「申込があれば手話通訳を付けますよ」ということをもっとろう者に対して周知してもらいたい。
- (事務局) 全庁的には、イベント申込時に配慮が必要か確認したうえで必要に応じて付けているような状況であり、手話通訳付きのイベント情報については積極的にPRできていないように思う。改めて各部局に対して周知したい。
- (議長) 情報保障がないと思っではじめから参加を諦めていることもあるので、イベント開催時は情報保障について共通マークを使用するなど明記してもらいたい。
- (委員) 聞こえのことだけでなく、車椅子の方はエレベーターがあるか、車椅子がじゃまにならないか気にしている。手話だけでなくそういったことが事前にわかるとよい。当事者側には申し訳ないという気持ちもあるし、断られるのではという心配もある。
- (委員) 県の計画は、視点が行政的で聴覚障がい者の目線が足りない。聴覚障がいの方の思いはもっとあり、手軽に何か対応できる方法はないのかと思う。例えば、博物館で「手話通訳者が同行します」と書いてあれば頼みやすいなど。
- (委員) 南部の拠点づくりが進んでいないが、今すぐ箱モノを造るのは無理と思うので、庁舎にICTを活用したタブレットを設置して、災害時にも活用するなど検討いただければ。また、南部の市町では手話通訳者の設置が進んでいない。例えば、手話通訳者設置に代えて、遠隔手話サービスを導入し、拠点である三重県聴覚障害者支援センターと連携することなども検討いただきたい。
- (事務局) ICT活用については昨年度もお話しをいただいたところ。電話リレーサービス学習会が8月13日にあるので職員を参加させる予定。南部にハード的な拠点は難しいので、ソフト面でICTをどう活用できるか工夫していきたい。
- (委員) 聴覚障害者支援センターで相談事業を行っているが、遠方の方は津まで来られないので、遠隔手話サービスなど相談に対応できる環境を整えてもらいたい。
- (委員) 当市では3人の手話通訳者を配置しており、9月頃には聴覚障がい者への対応として窓口にタブレットを6台導入する予定。また、イベントには手話通訳は基本的に付けることとしている。全県的にそのような体制になればよい。
- (委員) 音声認識アプリでUDトークというものがあるが、手話に代わるものということではなく、コミュニケーションツールの一つとして導入を検討している。当初、手話ができない子どもの保護者から導入について相談があった。いろいろな活用方法が考えられる。有料なので学校単独でやるよりは、県全体でやった方が割安となる。
- (議長) 大学の授業でもUDトークを使用して聴覚障がい者支援を行っている。サポーターが2名ずつ聴覚障がい者の横に付いて誤変換を修正することで、ほぼ内容は伝わっ

ている。

(委員) 企業で働く当事者の方が言われるのは、従業員に手話を使ってほしいというよりも、職域開拓の面でなるべく拒否感を持たずに受け入れてほしいということ。企業としては、聴覚障がいの方に活躍してもらおう場所をできるだけ提供したいので、どういったところであれば活躍できるかという情報をいただければありがたい。採用する側は、働いていただくとなるといろいろなものを準備しないと採用してはいけないように思いがちである。ICTについては、どういったものを使うとよいコミュニケーションにつながるのか、また、整備にあたって行政からサポートしてもらえると、使える場所は増えていくと思う。特に企業の中ではそれを活用することで就業していただけるのであれば、導入の検討は可能なのかなと思う。

(議長) ぜひ企業の方にも聾学校やPTAの方々とどんどん交流をしていただきたい。

(委員) 県民向け講座などに取り組まれているが、手話サークルの会員数は増えていないし、そこにつながっていないのが現状。とこわか国体に向けて手話のできるボランティアが必要ということで発信はしているのだが、どのように増やしていくのか見えない。

(議長) 手話サークルは全国的に同じような状況で、会員が少なくなっており高齢化も進んでいる。私が代表をしているサークルでは、毎週30～40人程度集まっていたのだが、最近の傾向としては、聾学校の子どもと母親と一緒に来ていただいている。

(委員) 内部で議論した際に、手話通訳者が増えない現状には、資格がなかなか取れずに断念するということもあるので、もっと緩い資格、見習い等を設けられないかという意見があった。

(議長) スキルアップカリキュラム策定の取組も、手話奉仕員の養成講座を修了し、次に手話通訳に取りかかる2、3年がどうしても続かないということがあるので、そこに対応した取組ということ。

(委員) 手話通訳者のレベルを下げる検討はしない方がよい。手話通訳は、ろう者の生活や命を守っている面があり、一定のスキルがないと任せられないといった社会的な縛りが必要である。むしろ育てる工夫、学べる環境に注力してほしい。例えば、スキルアップカリキュラムに取り組むために予算付けをしっかりとやるとか。また、手話通訳養成講座は津と四日市が会場で、南の人は来られずに学べない状況なので、ICT活用で受講しやすい環境を整えてもらいたい。

(議長) 学び続けられる環境を整えるということと、岐阜県も同様だが、地域的な偏在の課題があるので、何らかの仕組みがないと状況は変わらないということ。

(委員) 推進計画に基づく取組状況を説明いただいたが、課題がよくわからないし、今年度の取組にどうつながっているかがわからない。資料の作り方として、これは達成できて問題がないので引き続き取り組み、これはこういう課題があったので、本年度見直してやる、という整理をしてもらうと分かりやすいのでは。また、数値目標について、どこにどのように関連した数値なのか、もう少し丁寧に説明してもらえるとよかった。

(委員) 29年度の会議でも出たが、PDCAサイクルを回していくのが大事である。今回はこのようなことを実施しましたとだけ書いてあるので、結果がどうだったのか、良かったのか悪かったのか、悪かったらどう対応するというように、継続していけるような検証が必要。毎年このような内容で会議を続けていても変わらない。

(事務局) 取り組み始めて1年目ということで、実績中心の資料になってしまった。課題や検証をどのようにしていくか、資料については工夫していきたい。目標についても工夫していきたい。

(委員) 「障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例」の説明をしてもらったが、第28条3項に関して、聴覚障がい者への情報提供の手段ついて、もう少し説明をしてもらいたい。

(事務局) ありとあらゆる手段ということで、技術革新にはめざましいものがあるので、そういったものも想定されている。逐条解説には、『「その他の意思疎通のための手段」とは、遠隔手話サービスや音声認識ソフトなどの活用が想定されます。』と明記されている。

(委員) 県内で手話を授業としている高校は5校あり、全国的に多い。しかし、卒業してからつながるところ、交流する場所がなく残念。県内には聾学校があるので、年に1回でも交流する機会を設けるなどしてもらおうとよい。また、県内の高校の中にも手話サークルが立ち上がるとよいし、サークル同士で交流することもよいと思う。

(委員) 皆さんの思いが強く、時間が足りないようなので、時間設定も含めて今後に生かしてもらいたい。

(委員) もっと気軽に皆が手話に接することができればよいと思う。テレビでろうの学生が、「英語を話せなくても、YESとかハローくらいは誰でも知っているように、簡単な手話を皆がわかってくると、少しずつでもコミュニケーションがとれてよい」と言っていて、自分も共感した。

(委員) 教職員採用試験で手話通訳の資格があれば加点するという自治体もあるので、三重県でも検討をしてもらえば。また、医療機関での理解がまだまだ進んでいない。聴覚障がいに対する理解も、手話通訳に対する理解もまだまだと感じる。パンフレットなどで啓発してもらえば。

(事務局) 30年ほど県職員をしているが、手話に関する環境は非常に進んだと感じる。ただし、条例が出来たにしては、資料の作り方も含めて、まだまだなところもあるので、少しずつ良くしていきたい。UDトークの話が出たが、県で用意しようとするとう端末が何台も必要となる。そういったことも大切だが、まずは県職員自身がイベント時に手話通訳を付けないといけないということに気付くような取組から始めていきたい。

以上